



拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 101

令和 7 年 9 月 22 日

**9月2日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



札幌の真夏日(30℃以上)が34回を数え、101年ぶりに更新されました。ただし、8月下旬以降、曇りのピークはこえ、朝夕は寒さを感じる今日この頃です。

■ 総務部より ■

- ・8月30日(土)14時から地区センター多目的ホールにて、連町・社協・民児協の三者連携共同の「福祉除雪説明会及び意見交換会」を開催しました。9町内会から11名、北区社協から3名、他8名、**総勢22名が参加**されました。北区社協事務局次長の佐竹さんからの福祉除雪事業についての説明から始まり、連町総務部長の柴田から昨年度の拓北・あいの里地区の福祉除雪の実施状況の報告があり、質問及び意見交換が行われました。福祉除雪の利用者と協力員が同じ町内会でペアリングしたのが7割余であること、協力員の募集及び確保は回覧だけでは難しいことなど、**もっと町内会の働きかけが必要、7人で協力員グループを結成し各自の都合の良い曜日を決めて実施**している、1軒は福祉除雪で、他の3軒は条件に該当しないが困っておられるので、除雪機の燃料費等を負担してもらいボランティアで除雪している、連町、社協、民児協、単町(住民)4者で生の声を聞く会を設けてはどうか、等々の意見、提案が出され、有意義な会となりました。

■ ふれあい交流部より ■

- ・8月29日(金)の「ぽかぽかふれあい広場」は地区センター多目的ホールに3組7名の親子さん、北区すこやか保健係の方、栄養士さん、スタッフを含めると**総勢23名が参加し、自由遊び、いざという時の防災の話、子どもの好きな野菜の切り方、ペープサート「バナナのおやこ」、絵本で子育て講座、紙芝居**が行われ、皆さん楽しく過ごされました。
- ・9月2日(火)の「ひまわりクラブ」は拓北ひまわり会館に7組15名の親子さんが参加され、自由遊び、紙芝居、こども遊び「はないちもんめ」、絵本の読み聞かせ、お誕生月のお子さんへのプレゼント、お月見、ハロウィンのフォトスポットコーナーでの写真撮影など、盛りだくさんのプログラムでした。
次回は10月9日(木)10:00~11:30、拓北ひまわり会館にて開催予定で、**歯科衛生士さんによる乳幼児期のむし歯予防についての教室「すくすく歯〜く〜」**があります。
- ・8月21日(木)の「福まちサロン」は地区センター和室に11名の高齢者が参加され、**牛の絵を描こう、あるある川柳(頭の体操)、ピンゴゲーム、モルック**を楽しまれました。また**参加者全員にお月見フクロウの折り紙カードをプレゼント**しました。
次回は9月25日(木)10:00~11:30、拓北パレス会館にて開催予定です。

■ ボランティア企画部より ■

- ・生活支援ボランティアの活動は、8月から9月上旬にかけて3件実施しました。2件は昨年度から継続して行われている一人住まいの高齢男性の室内清掃で、もう1件は夫婦二人の高齢世帯で、一人では重いコンクリート製の汚水桝の蓋を開ける手助けの依頼にこたえたものです。



総勢22名が参加した8月30日の福祉除雪説明会及び意見交換会の様子



3組7名の親子さんたちが参加した、8月29日のぽかぽかふれあい広場。ペープサート「バナナのおやこ」で皆さんが踊り出している様子



7組15名の親子さんたちが参加した、9月2日のひまわりクラブ。親子そろって「はないちもんめ」をして楽しんでいる様子



11名の高齢者たちが参加した、8月21日の福まちサロンで、全員へのプレゼントとしたお月見フクロウの折り紙カード

[裏につづく ➡]

■ 地域ケア部より ■

8月例会は19日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて石狩市認知症地域支援推進員(株式会社 Sun・Ju・想/主任介護支援専門員)・木元国友(きもと・くにとも)さんをゲストに「認知症にやさしいまちを目指して～注文をまちがえるレストラン in いしかりの取り組みを中心に」をテーマに、地区センター2階集会室にて話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター32名、オンライン1名、合計33名。

話題は、1.石狩市での活動、2.石狩版チームオレンジについて、3.注文をまちがえるレストランについて、4.まとめ、です。

1. 石狩市での活動：石狩市認知症地域支援推進員である木元さんは、石狩市でRUN 伴北海道、認知症カフェ「みなカフェ」、注文をまちがえるレストラン(春花林の活動)、石狩版チームオレンジ「認知症ボランティアみなみな」、家族の会、認知症サポーター養成講座等々、数多くの活動に携わってきました。

石狩市から求められている役割は、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、認知症の人とその家族の視点を重視しながら、地域における支援体制の構築と認知症ケア向上を図ること、です。

実は、介護保険ではできないことが多くあります。ペットの世話、庭いじり、パークゴルフ、温泉、映画鑑賞等。傾聴、散歩、受診も場合によってはできないことがあります。2016年から始まったRUN 伴(ランとも)北海道は、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながら一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベントで、認知症になっても仲間とともに走りつづけたい、という思いにこたえるもので、その後北区、中央区、厚別区、清田区、西区、手稲区でも開催しました。

2. 石狩版チームオレンジについて：石狩市認知症サポーター・ステップアップ講座を、年に1回の頻度で開催しています。第1回目のメンバーが修了後OB会を開催し、見学や勉強会、意見交換会を繰り返しおこなってきました。

2012年度の講座の受講を経て、石狩市民同士としてできることがあるのではと思い、翌2013年度に石狩市認知症ボランティア「みなみな」を結成しました。その設立趣意書には、「・・・住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、家族や近隣の人々、地域のあたたかいサポートがあったら、どんなに安心でしょう。・・・ボランティアの基本精神である、「自分のための活動」との考え方を大切に活動していきます。」とあります。「みなみな」では、認知症の方を対象として、公的サービスでは手の届かないところをサポートすることとし、主に自宅にて見守りや傾聴、趣味活動等をおこなっています。メンバーは全員石狩市市民で、利用料は2時間500円です。

3. 注文をまちがえるレストランについて：認知症の人や障がい者が役割を持って活動できる場に地域住民が集い交流することで、互いに支え合う社会の形成の一翼を担うことを目的とした、「石狩市注文を間違えるレストラン事業交付金」利用の相談がありました。これをきっかけに、地元の大学生、特養の施設長、石狩市、作業療法士等からなる実行委員会をつくり、検討を重ね、2018年に最初の事業として「注文をまちがえるレストラン in いしかり」を、翌2019年には地元の石狩翔陽高校で「カフェねむのき」を、2021年には「注文をまちがえるレストラン in 春花林」を実施しました。

とくに2021年の春花林では、コロナ禍時でもあり屋外でやろうということで、認知症の状態にある方々が、個人所有の雑木林の整備一笹藪を切り開き、入り口を開拓し、倒れそうな木は伐採するなど、みんなで開拓することから始め、菜園での食材の栽培、イズのすのこ作り、料理の下ごしらえ、メニューの考案などを、自分たちの力で成し遂げました。これを私たちは春花林のキセキと呼んでいます。実施後の反応として、来店者からは「認知症の人は何もできない人だと思っていたが、考えが変わった」、「家では危ないから何もさせていなかったが、久々に母親らしい姿をみた」という声や、認知症の当事者からは「また機会があればやりますよ」、「まだ現役ですからこれくらい」という声がありました。

4. まとめ：なぜ注文をまちがえるレストランをやるのか？ 認知症の人は何もできない人ではありません。年を重ねても「人の役に立ちたい。誰かと関わりをもって過ごしたい。」と思う気持ちは、認知症になっても同じです。介護者は何もさせない人ではありません。

かつては認知症の人は何もわからない人と決めつけ、大規模集団で画一的なケアをおこなうことが中心でしたが、現在は利用者本人を中心としたケアで小規模・個別サービスへと変わってきています。

木元さんは、つながる・仲間をつくる・巻き込む、PDCAサイクルで実践してみる、まずはやってみる・真似でもいいので、自分ができること・やりやすいことから・無理なく・楽しく、を心がけているそうです。

9月例会は16日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、札幌認知症の人と家族の会 監事・下村笑子(しもむら・えみこ)さんをゲストに「夫の介護をめぐって今自分が思う事...介護保険制度の矛盾点を皆で考えましょう!」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の102号で報告いたします。

なお、10月例会は地区センター工事のため休会とします。



地区センターで33名が参加した、8月19日の地域ケア部の例会